

アマルナ文書から見るエジプトと古代近東地域的外交関係

ナーセル・メッカーウィ *
住吉 祐亮 訳

1 アマルナ文書の関係者と彼らの首都

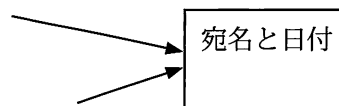
- a. エジプト (アメンホテプ 3 世、アメンホテプ 4 世 = アケトアテン、ツタンカーメン)
- b. バビロニア (カダシュマン・エンリルからブルナ・ブリアシュ)
- c. アッシリア (アッシュール・ウバリト 1 世)
- d. ミタンニ (トウシュラッタ王)
- e. アルザワ王国 (ターフンダラドゥ王)
- f. アラシア (アラシアの王)
- g. ヒッタイト (シュッピルリウマ 1 世)

発	着	文書番号
メンフィスもしくはテーベ	バビロン	EA 1
バビロン	メンフィスもしくはテーベ	EA 2; 3; 4; 5; 6;
バビロン	エル・アマルナ	EA 7; 8; 9; 10; 11; 12
エル・アマルナ (?)	バビロン	EA 14
アッシュール	エル・アマルナ	EA 15; 16
ワシュカンニ	メンフィスもしくはテーベ	EA 17; 18(?); 19; 20; 21; 22; 23; 24; 25;
ワシュカンニ	エル・アマルナ	EA 26; 27; 28; 29; 30
メンフィスもしくはテーベ	アルザワ	EA 31
アルザワ	メンフィスもしくはテーベ	EA 32
アラシア	エル・アマルナ	EA 33; 34; 35; 36; 37; 38; 39; 40
ハットウシャ	エル・アマルナ	EA 41; 42(?); 44

2 外交手段：書簡

書簡の形式はどの場所においてもほぼ同じである。古代の近東における書簡は、通常、以下の構成からなる。

- a. 宛名
- b. 挨拶文
- c. 書簡の主題
- d. 終わりの辞
- e. 日付と印



* カイロ大学考古学部エジプト学科

(Department of Egyptology, Faculty of Archaeology, Cairo University, Egypt)

世界のどの文化でも、書簡は少なくとも受け取り手の名前を含む句から始まっており、送り主の名前も、送り主と受け取り主の社会的地位についての手掛かりと同様に、しばしば含まれる。古代の近東における挨拶の形式は、宛名に添付されるものであった。

古代近東の書簡では、宛名、挨拶文（見出し）や書簡の主題とは対照的に、書簡の他の部分（終わりの辞と日付）は時折紛失している。

2.1 宛名

アマルナ文書では、3種類の宛名の形式が存在する。これらは、

ana R qibīma umma S

「RへSのように話す（言う）。」

EA 1: 1-4; EA 7: 1-2; EA 8: 1-3; EA 6: 1-3; EA 9: 1-3; EA 10: 1-2; EA 11: 1-2; EA 15: 1-3; EA 16: 1-3; EA 17: 1-3; EA 18: 1-2; EA 19: 1-3; EA 20: 1-4; EA 21: 1-4; EA 23: 1-5; EA 26: 1-2; EA 27: 1-2; EA 28: 1-4; EA 29: 1-4; EA 35: 1-2; EA 37: 1-2.

umma S ana R qibīma

「Sのように、Rへ話す。」

EA 5: 1-4; EA 31: 1-2; EA 34: 1-2; EA 41: 1-3.

ana R umma S

「Rへ話す、かくのごとくSが。」

EA 33: 1-2.

となる。

以下の要素によって、宛名は拡張されうる。

- LUGAL* 「王」、*LUGAL GAL* 「偉大な王」、*LUGAL GAL ša māṭ misiri* 「偉大なるエジプトの王」のような、称号によって。
- ŠEŠ-ia (aḥija)* 「私の兄弟」、もしくは *ŠEŠ-ka (aḥika)* 「あなたの兄弟」のような、親戚関係の名称によって。
- ḥatanija ša ara`amu ša ira`manni* 「私の義理の息子、私が愛し、私を愛する者」、もしくは *emūka ša ira`amūka* 「あなたを愛する義理の父」のような、姻戚関係によって。我々はこの形式を、ミタンニのトゥシュラッタ王からエジプトの王アメンホテプ4世への書簡形式でのみ確認した。

受取人と送り手の名前は、先述の3種類の宛名の形式の全てで常に言及される。

2.2 挨拶文

この形式は、青銅器時代後期のエル・アマルナにおける国際的な往復書簡において初めて生まれた。そこでは、アマルナ式挨拶形式が維持されているのである。この形式におけるアッカド語の基本的な大要は、次

のように成り立つ。*ana maḥarīja / ana iaši šulmu a-na maḥ-ri-ka* もしくは *a-na ka-ša* 「私は元気で、万事順調である。あなたが万事において順調であらんことを。」このような特定の挨拶形式は、2つの主要な部分から成立する。

a-na UGU-ia もしくは *a-na ia-ši šul-mu a-na É.MEŠ-ia DAM.MEŠ-ja DUMU.MEŠ-ia ^{LU}GAL.MEŠ-ia ERÍN.MEŠ-ja ANŠE.KUR.RA.MEŠ-ia ^{GIS}GIGIR.MEŠ-ia ù i-na ŠÀ^{bi} KUR.MEŠ-ia dan-niš lu-ú šul-mu*

「私にとって、全てが順調である。我が家、我が妻、我が息子、我が臣下、我が軍、我が馬、我が二輪戦車、そして我が国中が、万事大いに順調である。」

(EA 1: 7-9; EA 5: 9-12; EA 31: 3-5; EA 35: 3-5; EA 7: 4-5)

a-na ia-ši lu šul-mu

「私にとって、全てが順調である。」

(EA 3: 4; EA 6: 4; EA 10: 3; EA 8: 4; EA 11: 3; EA 9: 4; EA 17: 4; EA 18: 3; EA 19: 5; EA 20: 4; EA 21: 8; EA 23: 6; EA 26: 2-3; EA 27: 3; EA 28: 6; EA 29: 2; EA 33: 3; EA 37: 3; EA 38: 3; EA 39: 3; EA 41: 3)

a-na maḥ-ri-ka もしくは *a-na ka-ša lu šul-mu a-na É-ka DAM.MEŠ-ka DUMU.MEŠ-ka ^{LU}GAL.MEŠ-ka ERÍN.MEŠ-ka ANŠE.KUR.RA.MEŠ-ka ^{GIS}GIGIR.MEŠ-ka ù i-na ŠÀ^{bi} KUR.MEŠ-ka dan-niš dan-niš lu šul-mu*

「貴方にとって、全てが順調であらんことを。貴方の家、貴方の妻、貴方の息子、貴方の臣下、貴方の軍、貴方の二輪戦車、そして貴方の国中が、万事大いに順調であらんことを。」

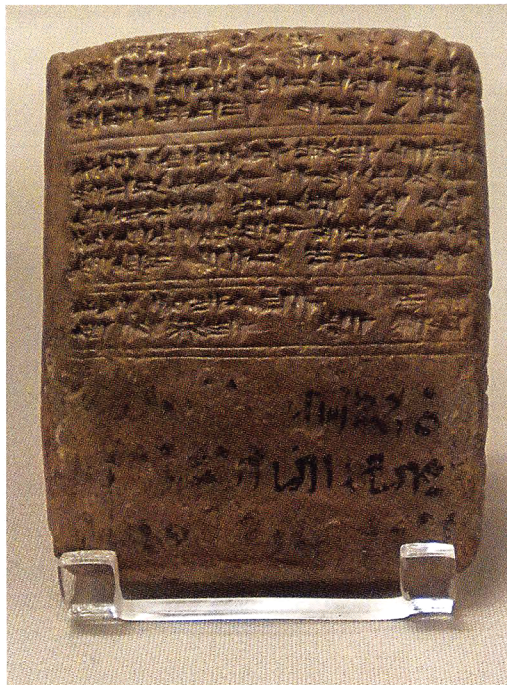
(EA 2: 4-5; EA 3: 4-6; EA 5: 4-8; EA 6: 5-7; EA 7: 6-7; EA 8: 5-7; EA 9: 5-6; EA 10: 4-7; EA 11: 3-4; EA 17: 5-10; EA 19: 5-8; EA 20: 4-7; EA 21: 8-12; EA 23: 6-12; EA 26: 3-6; EA 27: 3-6; EA 28: 6-11; EA 29: 3-5; EA 35: 5-8; EA 37: 4-7; EA 38: 3-6; EA 39: 5-9; EA 41: 3-6; EA 42: 5-7)

2.3 終わりの辞

エル・アマルナの国際書簡では、終わりの辞が、私の知る限り存在しない。しかしながら、これらの内18枚の書簡における *ana šulmāni ŠEŠ-ia* 「我が兄弟の健康のために」 もしくは *ana šulmānika* 「貴方の健康のために」 を伴う表現形式において、それは、様々な贈り物の約束の後に続いている。

2.4 日付

私の知る限り、書簡には日付の表示が無く、日や月、年などの詳細な日付が無い。EA 23の終わりにのみ、ヒエラティックで *rnpt 36 ibd 4 prt* 「第36年、冬の4月」と日付が記されているが、これは当該の書簡が原文から写されたものであり、エル・アマルナの国際書簡局において用意されていたためである。



EA 23

3 王室書簡の範囲

エル・アマルナからの国際書簡は、主に以下のテーマに関するものである。

a- 金、ラピスラズリ、馬、二輪戦車、衣服、椅子やベッドのような、貴重な贈り物の交易

EA 2: Rs. 1-5 (カダシュマン・エンリルからアメンホテプ3世); EA 3: 13-22 と 32-34 (カダシュマン・エンリルからアメンホテプ3世); EA 4: 36-50 (カダシュマン・エンリル?からアメンホテプ3世?); EA 5: 13-33 (アメンホテプ3世からカダシュマン・エンリル); EA 6: 20-22 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ3世); EA 7: 53-72 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ4世); EA 8: 43-47 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ4世); EA 9: 7-18 と 38 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ4世); EA 10: 8-24 と 43-49 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ4世); EA 11: 19-34 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ4世); EA 14 (アメンホテプ4世からブルナ・ブリアシュへの贈り物リスト); EA 15: 9-15 (アッシュール・ウバリトからアメンホテプ4世); EA 16: 9-12 (アッシュール・ウバリトからアメンホテプ4世); EA 17: 36-45 (トウシュラッタからアメンホテプ3世); EA 19: 34-70 と 80-85 (トウシュラッタからアメンホテプ3世); EA 20: 80-84 (トウシュラッタからアメンホテプ3世); EA 21: 35-41 (トウシュラッタからアメンホテプ3世); EA 22 (トウシュラッタからアメンホテプ3世への贈り物リスト); EA 25 (トウシュラッタからアメンホテプ3世への贈り物リスト); EA 27: 104-113 (トウシュラッタからアメンホテプ4世); EA 29: 182-187 (トウシュラッタからアメンホテプ4世); EA 31: 28-38 (アメンホテプ3世からアルザワのターフンダラドゥ); EA 34: 16-25 (アラシア王からエジプト王へ); EA 35 10-15, 23-26 と 43-53 (アラシア王からエジプト王へ); EA 37: 9 (アラシア王からエジプト王へ); EA 41: 23-43 (シュッピルリウマからツタンカーメン?)。

b- 政府間関係の強化

EA 1: 62-65 (アメンホテプ 3 世からカダシュマン・エンリル); EA 6: 8-17 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ 3 世); EA 7: 36-41 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ 4 世); EA 8: 8-10 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ 4 世); EA 9: 6-7 と 19-37 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ 4 世); EA 15: 7-9 (アッシュール・ウバリトからアメンホテプ 4 世); EA 17: 21-29 と 51-54 (トウシュラッタからアメンホテプ 3 世); EA 19: 30-33 (トウシュラッタからアメンホテプ 3 世); EA 20: 8-13 (トウシュラッタからアメンホテプ 3 世); EA 23: 30 (トウシュラッタからアメンホテプ 3 世); EA 24 § 35: 111-113 (トウシュラッタからアメンホテプ 3 世); EA 28: 42-49 (トウシュラッタからアメンホテプ 4 世); EA 32: 2-4 (アルザワのターフンダラドゥからアメンホテプ 3 世); EA 34: 42 (アラシア王からエジプト王); EA 41: 7-13 と 16-22 (シュッピルリウマからツタンカーメン?)。

c- 政略結婚

EA 1: 10-17 と 96-98 (アメンホテプ 3 世からカダシュマン・エンリル); EA 2: 6-11 (カダシュマン・エンリルからアメンホテプ 3 世); EA 3: 4-12 (カダシュマン・エンリルからアメンホテプ 3 世); EA 4: 4-22 (カダシュマン・エンリルからアメンホテプ 3 世?); EA 5: 16 (アメンホテプ 3 世からカダシュマン・エンリル); EA 11: 16-22 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ 4 世); EA 19: 17-24 (トウシュラッタからアメンホテプ 3 世); EA 20: 8-9 と 14-32 (トウシュラッタからアメンホテプ 3 世); EA 21: 13-23 (トウシュラッタからアメンホテプ 3 世); EA 24 § VI: 59-62 (トウシュラッタからアメンホテプ 3 世); EA 31: 11-26 (アメンホテプ 3 世からアルザワのターフンダラドゥ); EA 32: 4-13 (アルザワのターフンダラドゥからアメンホテプ 3 世)。

d- 死に対するなぐさめ

EA 11: 5-15 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ 4 世); EA 28: 12-19 (トウシュラッタからアメンホテプ 4 世); EA 29: 55-60 (トウシュラッタからアメンホテプ 4 世)。

e- 王位継承に対する祝辞

EA 33: 9-10 (アラシア王からエジプト王); EA 29: 61-64 (トウシュラッタからアメンホテプ 4 世); EA 41: 16-17 (シュッピルリウマからツタンカーメン?)。

f- 歴史上の出来事

トウシュラッタと DU-hi 間の紛争 EA 17: 11-20 (トウシュラッタからアメンホテプ 3 世)、ミタンニとヒッタイト間の戦争 EA 17: 30-35 (トウシュラッタからアメンホテプ 3 世)、アラシアにおける疫病 EA 35: 14-15 と 35-39 (アラシア王からエジプト王) 等。

g- 王族の使者と御用商人の特権

EA 7: 73-82 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ 4 世); EA 8: 10-21 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ 4 世); EA 16: 43-55 (アッシュール・ウバリトからアメンホテプ 4 世); EA 24 § 29: 40-42 (トウシュラッタからアメンホテプ 3 世); EA 28: 12-41 (トウシュラッタからアメンホテプ 4 世); EA 29: 155-161 (トウシュラッタからアメンホテプ 4 世); EA 30: 1ff. (トウシュラッタ? からカナン王); EA 38: 23-25 (アラシア王からアメンホテプ 3 世); EA 39: 10-20 (アラシア王からエ

ジプト王)。

h- 神像の道程

EA 23: 13-17 (トウシュラッタからアメンホテプ3世)。

i- 国際書簡のプロトコル

EA 3: 19-31 (カダシュマン・エンリルからアメンホテプ3世) ; EA 7: 8-32 (ブルナ・ブリアシュからアメンホテプ4世) ; EA 34: 7-15 (アラシア王からエジプト王) ; EA 42: 15-26 (送り主不明)。

4 王族の使者

アマルナ文書は、当時の交易や外交を理解するための有力な証拠を提供してくれるため、我々にアマルナの使者の外交における役目に関する重要な手がかりをもたらす。アマルナの使者の重要性を探る際には、最初に誰が使者 (*mār šipri*) となりえたのか、を考えなければならない。EA 149: 83 は、一般に宮殿と密接に結びつく誰かが使わされるため、歩兵がこの地位を占めていたと言及している。文書のうち一節 (EA 21, III, 22-23) は、ミタンニの王女が王家の使者として動いたと述べ、一方、別の一節 (EA 29: 156-162) はミタンニの王族の一員が使者として使わされたことを示している。EA 11: 36-37 と EA 39: 10-20 では、商人が王族の書簡の運び手として伴われた。

使者の重要性を示すさらなる証拠が、使者の名前を特定している約 23 通の手紙が存在するという事実によってもたらされる。うち幾名か、特にエジプトの使者 Mane とミタンニの使者 Gillia は何度も繰り返されているが、ほとんどの使者は一度しか現れていない。王室の代表として、王家の使者は多少の便宜と特権をもつことを期待される。カダシュマン・エンリルは、エジプトの使者へ「彼と飲食をともにする」ように勧めている。別の事例では、バビロニアの王ブルナ・ブリアシュが、自身が病気にかかっており、エジプトの使者とともに彼の主催する食事会またはワインを飲む機会が一度も取れなかったため、使者へ陳謝している (EA 7: 8-10)。幾人かの使者は異国の君主から贈り物を与えられた。一例として、ミタンニの王トウシュラッタはエジプトの使者 Mane と通訳の Hane を壮麗な方法で丁重にもてなし、多数の贈り物を彼らに与えた。

ここで、使者の職分と任務をまとめると以下ようになる。

- a- 自らの王から異国の君主へ、粘土板もしくは “*tuppu*” を運ぶこと。
- b- 異国の君主へ書簡を読み上げること。
- c- 彼の国の政策を通訳し、主張すること。
- d- 外交関係を確立、もしくは再確立すること。
- e- 将来の花嫁を見定め、交渉し、伴ってくること。
- f- 王たちの間で贈り物を運ぶこと。

5 王家の使者の許可証

王家の使者にとって国から国へ渡る旅のあいだ、許可証を持つことは重要であった。したがって、幾名かの王家の使者は王から許可証を受理していた。この許可証は彼らの旅をより速くし、官僚的な遅れを回避するための、使者の手助けとなった。それは一回だけ、特定の一か所のみ、そして特別な任務に限り有効であった。

このような証書は王族の使者の名前、職業、送り主、同行者、目的地を証明するものであった。

EA 30 は、こういった証書の典型的な例である。本書はミタンニからエジプトへ行く旅路をより速くし、そしてカナンやエジプトの国境、特に国境線で、官憲が適切な証書のために旅する使者を調べていた要塞 Sile を渡るときに、官僚的な遅れを避けるために王族の使者に与えられたものである。

*a-na LUGAL.MEŠ ša KUR Ki-na-a-aḥ-[ḥi] / ʾIR.MEŠ ŠEŠ-ia um-ma LUGAL-ma / a-nu-um-ma ʾA-ki-ia
^UDUMU.KIN-ia / a-na UGU LUGAL KUR Mi-iṣ-ri-i ŠEŠ-ia / a-na du-ul-lu-ḥi a-na kál-le-e / al-ta-pár-šu ma-
am-ma / lu-ú la i-na-aḥ-ḥi-is-sú / na-a-ri-iš i-na KUR Mi-iḥ-ri-i / šu-ri-pa ù a-na ŠU / ^Uḥal-zu-uḥ-li ša
KUR Mi-iṣ-ri-i / it-t[i] ḥa-mut-ta li-il-^Uli^U -[i]k / ù kat(?) -sú mi-im-ma i-na muḥ-ḥi-šu lu-ú la ib-bá-aš-ši*

「我が兄弟に仕える者、かのように王は言う、カナンの王へ。私は我が兄弟、エジプトの王へ速やかに届くよう、至急我が使者 Akiya に本書を添えて送る。何人も彼を妨げてはならない。彼にエジプトへの安全な入国を与えよ、そして彼をエジプトの要塞の司令官に引き渡せ。彼を即時に進ませよ、そして彼の贈り物が関係する限り、彼は何に対しても義務を負わないだろう。」(EA 30-13)

6 王家の使者が旅する期間

下記は、王家の使者の旅する距離と期間の表である。C・キューネは、待望の首都に到着する 24 日から 40 日の旅行期間の一日における距離の平均を、50km から 65km であると提唱している。

道程	距離 (km)	旅行期間
ワシュカンニ⇔メンフィス	約1550km	24日から31日
ワシュカンニ⇔アマルナ	約1850km	29日から37日
ワシュカンニ⇔テーベ	約2250km	35日から45日
バビロン⇔メンフィス	約1500km	23日から30日
バビロン⇔アマルナ	約1800km	28日から36日
バビロン⇔テーベ	約2200km	40日から50日

参考文献

- Abdel Kader, M., "The Administration of Syria-Palestine during the New Kingdom," ASAE 56 (1959).
- Adler, H. P., *Das Akkadische des Königs Tušratta von Mitanni*, AOAT 201, Neukirchen-Vluyn, 1976.
- Albright W. F., "Cuneiform Material for Egyptian Prosopography 1500-1200 B.C.," *Journal of Near Eastern Studies*, Vol. 5, No. 1, Albert Ten Eyck Olmstead Memorial Issue (Jan., 1946).
- Artzi, P., "El Amarna Document #30," *Actes du XXIIe congrès international des Orientalistes-Assyriologie*, Paris (1975).
- Brinkman, J. A., *Kadašman-Enlil, RIA V* (1976-1980).
- Crown A. D., *Tidings and Instructions: How News Travelled in the Ancient Near East*, JESHO 17 (1974).
- Gardiner, A., "The Egyptian Word for Dragoman," PSBA 15 (1915).
- Gelb, I. J., "The Word for Dragoman in the Ancient Near East," *Glossa* 2 (1968).
- Gruber, M. J., *Aspects of Nonverbal Communication in the Ancient Near East*, *Studia Pohl* 12/1, Rome, 1980.
- Heinhold-Krahmer, S., *Arzawa: Untersuchungen zu seiner Geschichte nach den hethitischen Quellen*, THeth. 8, Heidelberg, 1977.
- Helck, W., *Die Beziehungen Ägyptens zu Vorderasien im 3. und 2. Jahrtausend v. Chr.*, ÄA 5, Wiesbaden, 1971.
- Hellbing, L., *Alasia Problems*, SMA 57, Göteborg, 1979.
- Hess, R. S., *Amarna Personal Names*, ASOR 9, Indiana, 1993.
- Holmes, L. Y., "The Messengers of the Amarna Letters," JAOS 95 (1992).
- Izre'el, S., *The Amarna Scholary Tablets*, CM 9, Groningen, 1997.
- Kitchen, K. A., *Suppiluliuma and the Amarna Pharaohs: A Study in Relative Chronology*, *Liverpool Monographs in Archaeology and Oriental Studies* 9, Liverpool, 1962.
- Knudtzon, J. A., *Die el-Amarna-Tafeln mit Einleitung und Erläuterungen*, VB 2 Bde., Aalen (1964).
- Kühne, C., *Die Chronologie der internationalen Korrespondenz von el-Amarna*, AOAT 17, Neukirchen-Vluyn, 1973.
- Meier, S. A., *The Messengers in the Ancient Semitic World*, Atlanta, 1988.
- Moran, W. L., *The Amarna Letters*, Baltimore und London, 1992.
- Munn-Rankin J. M., "Diplomacy in Western Asia in the Early Second Millennium B.C.," *Iraq* 18 (1956).
- Muntingh, L. M., "The International Amarna Correspondence and Western Asia Diplomacy in the Amarna Age (14 Century B.C.)," in: *Proceedings of the International Symposium on Asian Studies, Section V: Asia and the Other Regions*, Hong Kong (1983).
- Rainey, A. F., *El Amarna Tablets 359-379: Supplement to Knudtzon, J. A., Die El-Amarna-Tafeln*, AOAT 8, Neukirchener-Vluyn, 1970.
- Redford, D. B., *Egypt, Canaan, and Israel in Ancient Times*, Princeton University Press, New Jersey, 1992.
- Reeves, N., *Echnaton: Ägyptens falscher Prophet*, *Kulturgeschichte der antiken Welt* 91, Mainz, 2002.
- Sallaberger, W., "Wenn du mein Bruder bist, ...": *Interaktion und Textgestaltung in altbabylonischen Alldaysbriefen*, CM 16, Groningen, 1999.
- Salonen, E., *Die Gruß- und Höflichkeitsformeln in babylonisch-assyrischen Briefen*, SO 38, Helsinki, 1967.

Ders., Die Tontafel von el-Amarna, VS 11, Leipzig, 1915.

Valloggia, M., Recherche sur les “messagers” (*wpwty*) dans les sources égyptiennes profanes, Thèse 212, Genève-Paris, 1976.

von Beckerath, J., Chronologie des Pharaonischen Ägypten, Münchner Ägyptologische Studien 46, Mainz, 1997.

von Soden, W., “Dolmetscher und Dolmetschen im alten Orient,” IUO 32, Neapel (1989).

“Diplomacy between Egypt and the Ancient Near East through the Amarna Letters” was translated by Yusuke SUMIYOSHI.